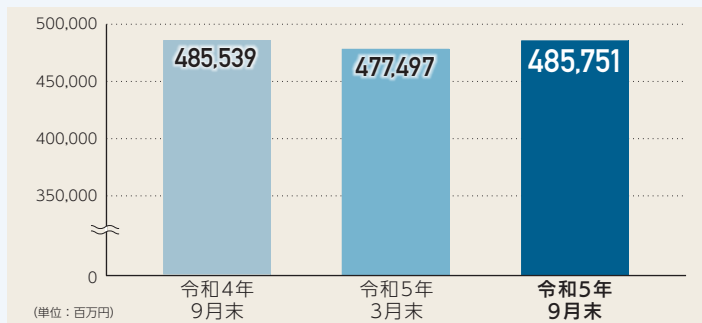


2023年度上半期の業績

■ 預金・貸出金残高の状況

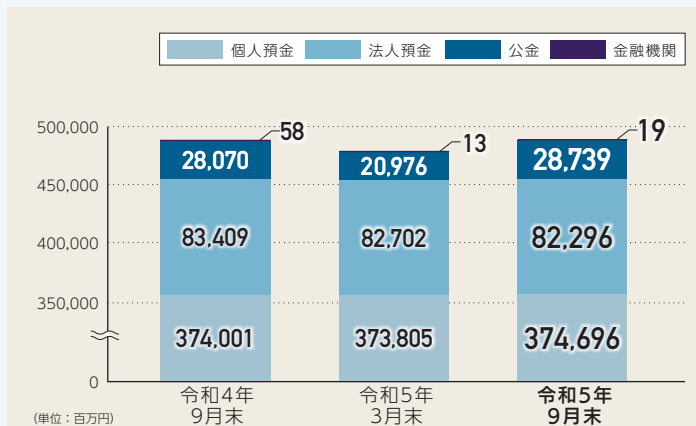
● 預金



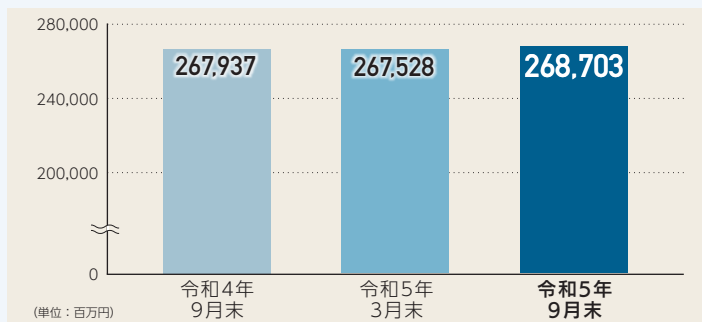
預金について

令和5年9月末の預金積金残高は、前期末比82億53百万円増加し4,857億51百万円となりました。科目別では、流動性預金が同比46億97百万円増加、固定性預金も同比35億56百万円増加しました。

● 預金人格別内訳



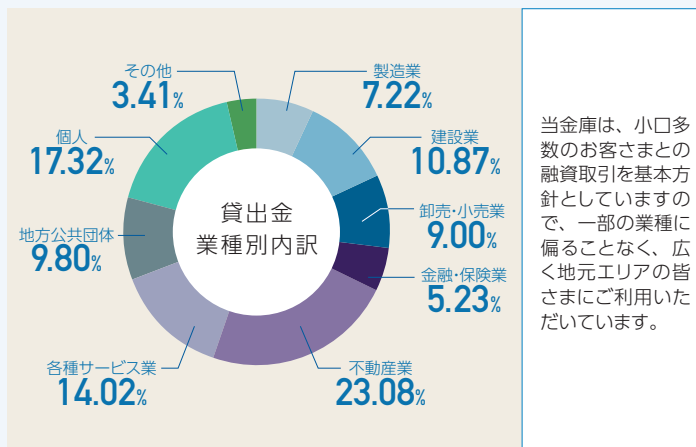
● 貸出金



貸出金について

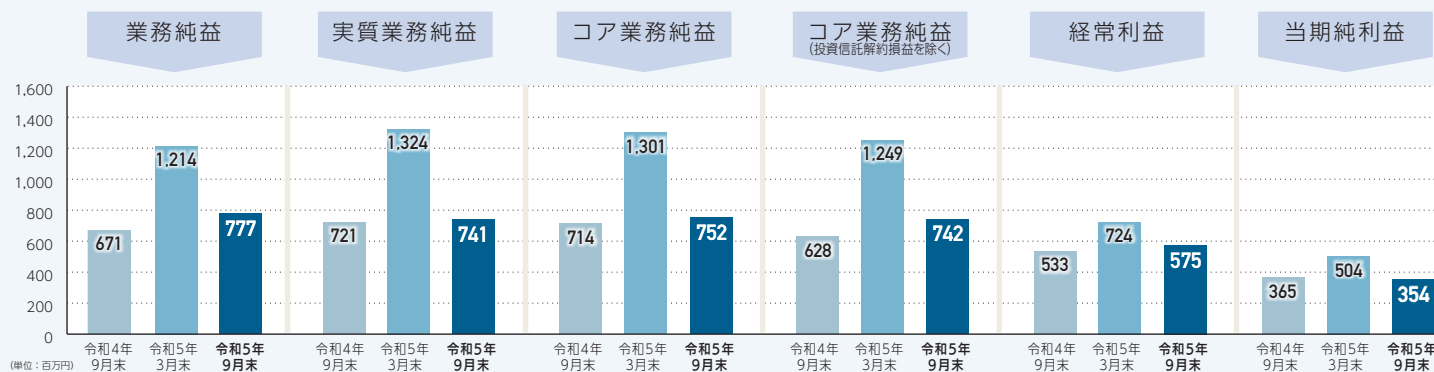
令和5年9月末の貸出金残高は、前期末比11億75百万円増加し2,687億3百万円となりました。事業性融資残高は、同比11億14百万円増加、住宅ローン残高も同比7億38百万円増加しました。事業性貸出先数は、前期末比54先増加し4,882先となりました。

● 貸出金業種別内訳



当金庫は、小口多数のお客さまとの融資取引を基本方針としていますので、一部の業種に偏ることなく、広く地元エリアの皆さまにご利用いただいています。

■ 損益および自己資本比率の状況



● 自己資本の構成に関する主な開示事項

(単位:百万円、%)

項目	令和5年3月末	令和5年9月末
コア資本に係る基礎項目の額 (A)	24,275	24,587
コア資本に係る調整項目の額 (B)	72	70
自己資本の額 (C) = (A) - (B)	24,202	24,516
リスク・アセット等の合計額 (D)	243,051	247,211
自己資本比率 (E) = (C) / (D)	9.95	9.91

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用金庫法第89条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用金庫および信用金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第21号)」に基づき算出しています。
なお、当金庫は国内基準により自己資本比率を算出しています。

● 定量的な開示事項

(単位:百万円)

項目	令和5年3月末	令和5年9月末
信用リスクに対する所要自己資本の額 (A)	9,312	9,478
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額 (B)	409	409
単体総所要自己資本の額 (C) = (A) + (B)	9,722	9,888

令和5年9月末の自己資本の額は、前期末比3億13百万円増加し、自己資本比率は9.91%となりました。自己資本比率は、国内基準4.0%以上が求められていますが、当金庫の自己資本比率は国内基準を大きく上回っています。